

古事類苑

植物部十六

草五

石蒜 〔和爾雅 七木〕石蒜シビトバナ 一枝箭、水麻並同、

〔物類稱呼 三〕石蒜しびとばな 伊勢にてせそび、中國及武州にてしびとばな、又ひがなばな、又

きつねのかみそり、上總或は美作にていうれいばな、又ひがなばな、越後信濃にてやくひうばな、

京にてかみそりばな、大和にてしたこじけ、出雲にてきつねばな、尾州にてしたまがり、駿河にて

かはかんじ、西國にてすてごばな、肥唐津にてどくすみた、土佐にてしれい、又しびと花、又すか

けと云、又まんじゆしやけと云有、種類なり、

〔大和本草 九雜草〕石蒜 老鴉蒜也、シビトバナト云、四月或八九月赤花サク、下品ナリ、此時葉ハザク

テ花サク故ニ、筑紫ニテステ子ノ花ト云、本草山草下ニアリ、

〔和漢三才圖會 九十二末〕石蒜 鳥蒜 老鴉蒜 水麻 蒜頭草 漣漣酸 一枝箭 俗云死人花、

曼珠沙華 東國中略

按石蒜者山慈姑之類、而山野墳墓邊多有之、故俗曰死人花、而人家忌之不種者非也、唐人呼山慈姑曰無義草、惡葉花不相見、亦同意也、九十月生苗似蒜葉、而長有劔脊、四散布地、紀州人用藉密柑籠中、四月葉枯徒爲空地、七月抽一莖尺餘、莖端開花七八朶、有青節、每朶開紅花六出、狹長攢簇如深紅絲、紐每瓣著赤蕊、七筋長而端戴小子形、如伊乃牟土、而初赤後黃、老則花緣變白、亦有之、秋分盛開、故名